うみの株式会社

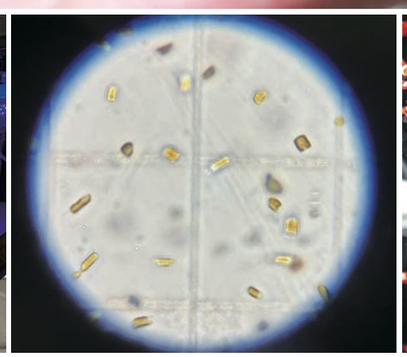
種苗メーカーによる日本牡蠣産業の競争力強化と持続的サプライチェーンの構築

日本の水産業を進化させ、次世代へつなぐ海とヒトを科学で豊かにするために

海洋生物研究所を前身に、山に抱かれた美しい入江に佇む。
二枚貝種苗（稚貝）の生産をコア事業として、熱帯魚販売や
水生生物・海洋環境に関する研究開発の受託サービスを手がける。
マガキの三倍体化を安定的に実用化し、種苗供給は民間国内初。
養殖業者を支え、牡蠣産業を元気にするための仕組みづくりに挑む。









1. 取り組みの経緯

主力事業であったアコヤガイ養殖施設の稼働率アップのために、夏でもおいしい三倍体マガキの種苗生産に取り組み、水産庁による特性評価のもとに国内各地の漁場に供給していた。しかしコロナ禍以降、販売先である養殖業者が人員確保・販路開拓に困難をきたしていたことから、種苗のさらなる普及を図るとともに、自社で牡蠣を買い取り一般消費者に販売する仕組みの構築をめざした。



▲二枚貝には欠かせない良質な餌料プランクトンの陸上培養施設

2. 実施内容

新たな漁場での養殖開始に際して特性評価の認定取得をサポートするとともに、本事業で導入したプロイディアナライザーで養殖海域の野生個体の染色体評価を行った。また、生産者から買い取った可食サイズの殻付き生牡蠣を自社ECサイトなどで販売するために、流水殺菌装置・牡蠣専用サイズ選別機・牡蠣高圧洗浄機・製氷機などのインフラを整備。ノロウイルス不活化処理にも取り組んだ。



▲UV-LED流水殺菌装置が出荷の際の浄化処理の低コスト化を実現

3. 取り組みの成果

三倍体マガキが養殖海域の生態系を汚染しないことが確認でき、生産者増、稚貝供給量増につながった。生産者負担の低減と収益性の確保をめざし、買い取り補償制度を試験的に導入。機器の導入により作業量が半減し、効率的な出荷システムが整った。自社EC サイトでは、顧客が仕入れ先となる優位性を生かし、複数産地のセット販売や生産者紹介を行い、高い品質と安全性を訴求していく。



▲出荷前の牡蠣を連続的に省力で選別する専用サイズ選別機

事業者から一言 **牡蠣を手始めに水産業を盛り上げたい**

この事業で「徳島ニュービジネス支援大賞2022」をいただきました。新しい仕組みをつくることで、生産者も消費者も種屋もみんながwinwinになればいい。まずは殻付き生牡蠣の美味しさを広く伝え、かつては世界一だった日本の水産業を再び盛り上げたいです。次は稚貝の無料提供を考えています。



代表取締役
中村　智治氏

うみの株式会社

〒779-2307
徳島県海部郡美波町山河内字外ノ牟井1-6
Tel.0884-77-1117 Fax.0884-77-1119

●代表取締役	中村　智治
●設立年月日	平成22年10月1日
●資本金	5,000万円
●業種	水産養殖業
●従業員数	19名
●ホームページ	https://umi-no.jp/